

令和3年度日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック第1回議員総会
議事録

開催日時	令和3(2021)年6月20日(日) 16:00~17:00
開催場所	ZOOM会議
司会	高柳亮 先生
議長	井口清太郎 先生
書記	関東甲信越ブロック支部事務局(東京大学大学院医学系研究科 医学教育センター/医学教育国際協力学部内)
テーマ	2021年度第1回議員総会
内 容	
1	<p>司会の高柳亮先生より、本日時点の関東甲信越ブロック支部学会の投票権を持つ参加者320名(学会代議員数302名、理事数18名)の内、直接の出席者76名、提出された委任状が113通であったことが報告され、関東甲信越ブロック支部規約「第22条 議員総会定足数」の開催の条件(代議員総数の3分の1以上)を満たしており、開会が宣言された。</p>
2	<p>支部長挨拶 大西ブロック支部長より、「昨年春頃からのコロナ禍で今回もオンラインでの開催となった。臨床の方々も不測の事態が多いと思うが、学会の方もお役に立てる方法を模索しており、皆さんと協力してこの支部を盛り上げていきたい」との挨拶がなされた。</p>
3	<p>議長選出 新潟大学の井口清太郎先生が、立候補により議長に選出された。</p>
4	<p>協議事項 議題1：令和2年度決算について(資料1) 大西ブロック支部長より資料1に基づいて2020年度収支決算の説明が以下の通りなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 収入の部は、前年度からの繰越金に助成金365万円が追加。研修事業費は、第9回ブロック地方会の参加費3月入金分(報告事項で詳細説明)である。 ● 支出の部の研修会費は、第9回ブロック地方会のWebシステム業者への前金支払い。支払い合計は、110万円程度だが3月開催のため残金(4月支払い)分は、令和3年度に計上する。広報費は学会のWebページの書き換え。各都県支部補助活動費15万円/支部は、2支部の前年度予算報告が遅れていたため支払いを保留。今年度分と合わせて支払う予定。若手医師補助活動費は、対面開催を想定して50万円の予算を計上していたが、オンライン開催になり講師料のみ3万5000円の支出。新専攻医オリエンテーション13万円もオンライン開催でその講師料。

- 管理費は、支部の印鑑購入、振込手数料。時期繰越金が約 690 万円となり、前年度より 199 万円増加しているが、コロナ禍で対面の活動ができなかったため。ここから 3 月の地方会残金支払いと昨年度の都県活動費 2 支部分、合わせて 100 万円程度の支出は既に予定されている。
- 資金は、みずほ銀行の口座で管理しており、先日、二人の監事と監査終了。

(採決：可決)

議題 2：その他

特になし

5 報告事項

① 令和 3 年度予算について (資料 2)

大西支部長より資料 2 に基づいて、下記の通り報告がなされた。

- 収入の部は、前期繰越金約 695 万円に学会からの助成金と、(第 9 回ブロック地方会) 参加費の 4 月入金分を計上。
- 支出の部は、例年 110 万円を地方会実施補助として研修会費に計上していたが、第 9 回ブロック地方会の Web システム業者への残金支払い分を追加した。都県活動費は前年度支払いを保留していた 2 都県分 (30 万円) を追加し、180 万円と計上している。若手医師補助活動について、昨年度は予算 50 万円に対し実支出は 3 万 5000 円だったが、今後は対面式の活動も見込み昨年と同額で計上した。新専攻医オリエンテーション助成金は、今年度既に終了しているが前年度同様 15 万円を計上。会議費は、今年度の動向が分からないので取り合えづ 10 万円を計上。長野県での第 10 回ブロック地方会がオンライン開催になるので、こちらもオンライン開催で会議費がかからない可能性があると考えている。
- 当期収支差額はマイナス 70 万円くらいの額になっているが、地方会の時期の問題で今年度予算に計上せざるを得ないこともあったので妥当ではないかと考える。

質問：なし

② 令和 2 年度 (第 9 回) ブロック支部地方会報告 (資料 3)

大西支部長より、資料 3 に基づいて以下の通り報告がなされた。

- 昨年 10, 11 月に対面式で予定されていた第 9 回地方会がコロナ禍で中止となったが、なんらかの形で地方会を開催したいと私の方で、急こしらえて本会合を開催した。プログラムは、4 つのワークショップ、講演、パネルディスカッション、およびキャリアカフェ・ミニ。口頭発表は動画、ポスター発表は PDF を掲示する形とし、Web 上質疑応答ができる方式で行った。こちらは 4 週間にわたって掲示する形となった。有料の参加者は、82 名。その他講師など含め参加者は、100 名余の会合となった。

- (会計報告は表で説明)。支出は主に Web 発表システム運用会社への支払いで約 110 万円。地方会補助金が 110 万円あり、参加費収入と合わせて実質費用は 70 万円ほど。
- この規模の Web 開催費用の参考として頂きたい。

質問：参加者が倍の人数になれば費用はどれくらいになるか。300 人や 400 人でも同じ額で対応できるか。

大西：発表の数によって額は変わってくるが、1 本増えれば何万円も増えるということではないので 300 人くらいの会合であれば、金額的に大きく跳ね上がることはないと思料する。100 人を超える場合、Zoom の他の機能などを使うとすると契約料が上がるが、大きな違いはない。

質問：各都県活動費を今年度 180 万円と計上した件。

大西：報告が遅れたら、1 年分支給停止という決断もあると思うが、その額を見込んで活動されていることも多いと思うので今年度はこのように処理したい。

③ 令和 2 年度、3 年度若手医師向け事業

監事の本多さやか先生より下記の通り報告あり。

- (自治医科大学地域医療後期研修プログラムの) 前橋美歌先生を中心に毎週 1 回のポートフォリオ発表会と、最後にポートフォリオ・グランプリを企画してまとめた。ポートフォリオ発表の場がこれまでなかったので、この機会に様々なテーマでフィードバックしていただいた。

大西：今年度に関し、支部内で若手医師部会で専攻医の継続支援事業をされると聞いているがそれはどうか？

本多：本日が初回だった。参加できなかったが若手部会の先生方が中心になり、ポートフォリオのコアになるようなレクチャーをしていただくと聞いている。

高柳：専攻医の年間を通じた支援企画について補足する。学会の専門研修支援会委員会の関東甲信越ブロック支部の委員の先生方が中心に運営し、本日が第 1 回目だった。参加者のべ 60~70 名 (申込は 100 名以上) というかなりニーズの高さを感じられる会で、盛況のうちに終わった。今年度は、本日を含め 4 回が企画されており、次回は 8 月 29 日で既に周知されている。若手の先生方が非常に精力的にがんばっているので指導医の先生方、ご支援ならびご参加をぜひお願いしたい。

④ 令和 3 年度新専攻医オリエンテーション

鋪野紀好先生から以下の通り報告がなされた。

- 今年度のプロジェクトチームは、関東甲信越ブロック支部の先生方の協力を得て運営

した。参加者は、93名。今回はレクチャーというより交流会を中心にオンラインで実施。今後も継続して行っていきたい。レクチャーの形をかなり割愛したので、継続企画に移行するという事でリエンションを中心に行っている。

⑤ 令和3年度（第10回）ブロック支部地方会進捗

長野県支部鈴木貞博先生より以下の通り、進捗状況の報告がなされた。

- 現地集合と Web のハイブリッドで検討したが、予算がかなり大きくなること、感染状況の見通しが立たないことから Web のみで開催することになった。開催時期は当初予定通り 10月30～31日。
- 特別講演については、諏訪中央病院名誉院長鎌田實先生にお願いしてある。症例報告に関して若い先生が発表する場がないということで、特にそこに力を入れる予定。ワクチン接種の関係で関係者が多忙になってしまい想定計画より1か月ほど遅れているが、7月中には HP で掲載したい、また公募のワークショップも HP 上で募集をかけたい。一般演題の集まり方によっては座長が必要になるので、皆様のご協力をお願いするかもしれない。
- この地方会でも指導医講習会単位が取れる企画を入れる予定になっている。

⑥ 令和4年度（第11回）ブロック支部地方会進捗

東京都支部竹村洋典先生より、下記の通り進捗状況の報告がなされた。

- 対面で可能であれば東京医科歯科大学で開催したい。新型コロナの感染状況によっては今 Zoom 開催も考えているがまだ未定。時期は、感染状況をみて秋開催を検討中。来年の秋なら対面でも開催可能なのではと考えている。皆様と顔を合わせた形での学会、学術的なもののみならず色々な個別のお話ができる状態にしたいと考えている。

⑦ 各都県支部からの報告

各都県支部より以下の通り報告が行われた。

東京都支部（竹村先生）：大学、病院、診療所の三つのグループにそれぞれリーダー会を作成した。大学グループは、都内の総合診療部門がある全ての大学に参加いただき、内6大学の教授が、包括性または多職種連携に関する色々な授業を次年度行う予定になっている。病院グループは、笹井先生がリーダーで今年度スタートアップセミナーを近いうちに開くことになっている。診療所グループは、先日、東京都の診療所における新型コロナウィルスに対する対応について活発な意見交換を行った。今年度に関しても同様の活動予定。

埼玉県支部（石田先生）：毎年秋に講演会を実施。去年はコロナ禍でできなかったが、今年度は、オンラインか対面か未定だが秋に実施したい。「埼玉のプライマリ・ケアをアートする」SPARTという若手の専攻医を中心にした集まりがあり、月1回オンラインでポートフォリオ勉強会を中心に行っている。順調に実施されているということで、Zoomにかかる費用などを県の予算で賄い、盛り上げていきたい。

茨城県支部（柳先生）：これまで薬剤師と医師のセミナーを年 6 回、オンサイトで実施していたが、コロナ禍でオンラインでの実施に変更。今年もオンラインで 6 回開催の予定。オンラインにしたことで全国から聞きに来ていただいております、参加者も増えているので逆に良かったかなという気がしている。

栃木県支部（寺門先生）：これまで栃木プライマリ・ケア研究会がブロック支部からの補助金使用や運営を行ってきたが、プライマリ・ケア連合学会非会員の方もおり、昨年、県支部が研究会から独立して組織された。6 月 13 日に第 1 回総会が開かれ、各規約などが更新された。研究会は、地方会を開催するなど支部機能は果たしていたが、グレイなところがあったので独立した。問題は栃木県支部会員は現在 40 名だが、栃木県の日本プライマリ・ケア連合学会会員数は、約 170 名。今後、これらの方に声をかけて支部会員になって頂き、活発な支部活動ができれば良いと思っている。

群馬県支部（高柳先生）：毎年年度末に支部総会ならびに研究会を開催してきたが、令和 1 年度に関しては新型コロナウイルス感染症流行の第一波のために中止した。令和 2 年度に関し、支部総会は書面開催という形にしたが、今年の 3 月 21 日に市立奈良病院総合診療科の森川暢先生を読んで「誤嚥性肺炎病棟診療の原則について」を Zoom による研修会で開催し約 50 名の参加を得て盛況であった。

長野県支部（鈴木先生）：毎年一回、全県の総会と講演会を開いているが、昨年はコロナ禍で中止している。全県を 4 か所に分け、それぞれ小さな研究会などで活動していたが、先日の報告によると、実際には活動できなかった模様。現在、長野県支部の役員の方には、第 10 回ブロック地方会の開催準備に注力していただいている。

新潟県支部（井口先生）：今年 8 月 29 日に第 14 回になる新潟プライマリ・ケア研究会をあがの市民病院の藤森勝也先生を会長としてハイブリッドで行いたいと考えている。新潟県は、非常に感染症の発生が抑えられてきつつあるので、ぜひ会場でも開催したい。

⑧ その他

大西ブロック支部長より、令和 3 年度第 2 回代議員総会について、長野県での地方会がオンラインになったため支部の議員総会についても同様にオンラインでの開催と、地方会とは別日で 11 月後半、12 月を準備していたきたと考えているとの言及があった。

また、ブロック支部長に対して単位を申請する方法は、今年 4 月から新たに Web 申請システムとなり、紙での申請は受け付けなくなったことが連絡された。

会員名簿について、下記の言及がなされた。

大西ブロック支部長：ブロック支部長として全会員の名簿を使っていいということになっているが、各都県に共有できるかどうかは、協議して目的等をお聞きした上で現在ブロック支部と都県支部の位置関係を話した上で、了承いただいたときに共有する。それぞれの都県支部を支援したいという意見があることをご理解頂きたい。

大橋先生（学会副理事長）：ブロック支部長会議で各ブロックで一番困ることは事務局業務という意見がでている。学会事務局が直接サポートできる方法がないかを検討している。

質問（寺門先生）：（県）支部として栃木県内にいる会員に誘いのメールを出したいが、個人情報なので県支部レベルでは出せない。関東甲信越ブロックの方から関東地域にいる会員にメールを出してもらえれば良いが、県内の会員にどう連絡したらよいか困っている。

大西支部長：全ブロック支部内の会員のメーリングリストを作るのは、ブロック支部の議員総会で決議すれば学会としては問題ないと思う。それを議案として挙げることを希望されるならそのように進めても良いかと思う。

大橋先生：学会の定款上では関東ブロックまでが学会の組織となっている。都道府県支部は学会の会員以外の方もいらっしゃるということで、学会とは直接的な関係性がないと3学会が合併した12年前に決められている。司法書士にも確認しているが、県支部に直接名簿を送ることはできない。関東甲信越ブロック支部には全会員の名簿を共有しているので、どのように有効に会員の皆さんに使っていただけるかという議論を各支部の中でお願いしている。ひきつづき協議していく必要があると思う。

最後に、大橋先生より来年開催される学術集会の告知が、以下の通りなされた。

- 第13回PC学術大会は、2022年6月10～12日にパシフィコ横浜で開催予定。ハイブリッドでの開催を考えている。最も経費が掛かる方法で、予算上厳しいが、これが新しいスタンダードになれば良いと思う。横浜の次は名古屋になる予定。

以上を持って、令和3年度第1回の議員総会を終了した。

案